

岩櫃山(803m)山行報告

【山行日】 2016年 12月 4日(日) 晴れ
【集 合】 岩舟支所P AM 7:00
【費 用】 マイカー1台 : 2,100円
【メンバー】 CL:鈴木コ 大西、関、田村、津佐、
藤原、松館、渡辺

【コースタイム】岩舟支所P7:00=平沢登山口P8:
45/9:05~岩櫃城本丸跡 9:30~赤岩通り分岐 9:50~
郷原城跡 10:30~潜龍院跡 10:45~密岩登山口
11:00/11:10~岩櫃山 12:00/12:10~櫃ノ口 12:30~
平沢登山口P13:10=岩櫃ふれあいの郷 13:30/15:30
=岩舟支所P17:00



人気の大河ドラマ「真田丸」ゆかりの地、岩櫃山に登りたいとリクエストがあり計画した。地元の東吾妻町では「真田丸」人気にあやかり、観光スポットとしてPRに力を入れ、立派な観光用小冊子まで作られていた。案内によると平沢登山口に立派な駐車場を整備し、案内所やトイレ、休憩所まで整備さ



れたらしい。お蔭で、今年は4万人以上の観光客や登山者が訪れたと管理人の方が言っていた。以前は、JR 吾妻線郷原駅から歩いたようだが、今回は平沢登山口から周遊コースを歩くことにする。関越道渋川・伊香保ICで降り、R17から草津方面へR353を進み、JR 吾妻線群馬原町駅を目指す。群馬原町駅の先の岩櫃城入口を左折し、案内に従って進むと平沢登山口の駐車場に着く。支度を整え、ストレッチを行ってすぐ上にある案内所まで歩きトイレを済ませる。案内所から右に進み、岩櫃城跡の標識に従って左の山道を登って行く。15分程登ると六文銭の旗が立つ岩櫃城本丸跡に着いた。激動の歴史を

刻んだ城跡で、当時を偲びながらミカンや菓子をいただく。ここからは尾根通りを進み、岩稜の痩せ尾根のアップダウンを繰り返しながら歩き、赤岩通り分岐を左に進む。すぐに旧道分岐に出て、左の旧赤岩通りを下り、郷原城跡を目指す。郷原城跡は平らな広場に標識が立つだけで、手前の案内板に郷原城の歴史が記されていた。ここから少し下ると平坦な広場に出て、左右にはかつて田や畑があったようだ。広い道を進むと潜龍院跡と標識があり、かつて真田昌幸が敗走する武田勝頼を迎え、武田家再興を図るため築いた御殿跡だ。少し先にトイレがあり、小休止する。ここから少し下ると舗装道路になり、古谷の集落の中を歩くようになる。

古谷T字路を右折し、荒れた畑の中を10分程登ると密岩登山口に到着。ここからが岩櫃山の核心部を登るコースで、登る前に休憩を取りエネルギーを補給する。ザレた急坂をロープや鎖を頼りに登り、途中T村さんとSLは後ろに回り2班に分かれて尾根鞍部に出る。ここからは岩場の連続で、クサリを頼りに岩壁を登って行く。急な岩場の登りはスリルがあり、高所恐怖症の人にはつらい登りだ。天狗の架け橋と呼ばれる細い岩は巻道を通るが、こちらも高度感がありスリ



ル満点。そこを通り抜けた後も、痩せ尾根の急な岩場の難所があり慎重に登る。両側が切れ落ちており、長いクサリは振られる危険があるので皆は先に行ってもらい、我輩はT村さんを待つことにした。



しばらくして2人が登って来たので、補助ロープを出してT村さんを確保する。

無事登り切り皆が待つ山頂へ向かい、山頂下で無事合流した。山頂は混雑しており、時間が計画より1時間以上遅れているので3名は山頂をカットする。すぐ下の平らな場所で休憩し、リンゴやまんじゅうを食べ空いた腹を落ち着かせる。九合目から櫃ノ口まで下ると危険な箇所は無く、落ち葉の登山道を緩やかに下って行く。

おしゃべりしながら30程下ると、舗装道路に出て案内所に着いた。駐車場まで下り、靴を履きかえて「岩櫃ふれあいの郷」へ向かう。「岩櫃ふれあいの郷」は、岩櫃

城を模した建物で温泉や食事処、文化や福祉などの複合施設。ゆったりと温泉に浸かり、岩場の登りで疲れた体が癒された。温泉から出た後は、食事処でランチタイム。各々好きなものをオーダーし美味しくいただいたが、お口に合わずご不満の方もいたようである。ふれあいの郷を後にし、途中道の駅「おのこ」に寄ってお買い物。採れたてのしっかりした舞茸が美味しそうなので、大きい株の物をゲットする。これで我が家の夕飯は、舞茸の炊き込みご飯に決定。岩櫃山は思ったより手強く1時間以上遅れたが、道路は順調で予定通り岩舟支所に帰宅できた。

